

日商簿記 1 級&全経上級ダウンロード講座 商会 No.19【連結会計 1】

収録日：平成 25 年 9 月 18 日

【出題実績】

日商出題傾向：117 回（B/S・P/L）・126 回（B/S・P/L）・131 回（B/S・包括利益）・134 回
会計学 128 回（在外子会社）
全経出題傾向：152 回・156 回（B/S）・159 回（仕訳）・161 回（精算表）

日商は 117 回まではシンプルな問題が多かったが、126 回（持分法から連結へ）、128 回会計学（在外子会社）、131 回（子会社 3 社＋在外子会社＋包括利益）、134 回（連結から事業分離）と専門性の高い問題が出題されています。

全経ではシンプルな問題が多いのですが 161 回では慣れていないと対応の難しい精算表の形式の問題が出題されました。

今後は応用力を問われる問題が出題される可能性が高いと思われます。

日商簿記の商業簿記で問われたら！！

①②で学んだ論点はほぼ不要になる！！

逆にいうと、得意にすれば 15~20 点近く取ること可能

会計学で問われやすい内容

在外子会社

連結キャッシュフロー（商業簿記で連結でなければ可能性あり）

連結に関する会計基準

持分法（商業簿記で連結でなければ可能性あり）

包括利益計算書

いずれにしても、今回から 4 回は日商 1 級特有の論点（税理士試験以上の内容）

最近では税理士試験でも出題されています。ただ、日商 1 級に比べると簡単な内容になります。

1. 一般原則は最低押さえておこう

【連結財務諸表作成の一般原則】

連結財務諸表は、企業集団の財政状態及び経営成績に関して真実な報告を提供するものでなければならない。

連結財務諸表は、企業集団に属する親会社及び子会社が一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成した個別財務諸表を基礎として作成されなければならない。

連結財務諸表は、企業集団の状況に関する判断を誤らせないように、利害関係者に対し必要な財務情報を明瞭に表示するものでなければならない。

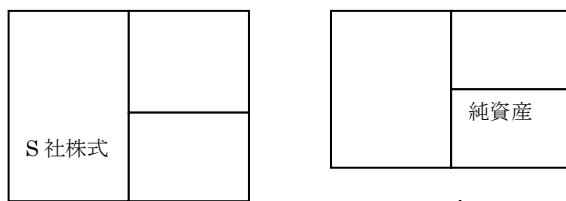
連結財務諸表作成のために採用した基準及び手続は、每期継続して適用し、みだりにこれを変更してはならない。

本支店会計の支店が子会社になった感じ

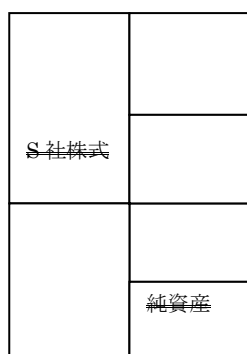
2. 投資と資本の相殺消去

【例題】

S 社(子会社)では、P 社(親会社)に対して、S 社株式 50 株を@¥200 で発行し、全てを資本金として処理した。(1)株式発行時の P 社・S 社のそれぞれの仕訳と、(2)連結修正仕訳を示しなさい。



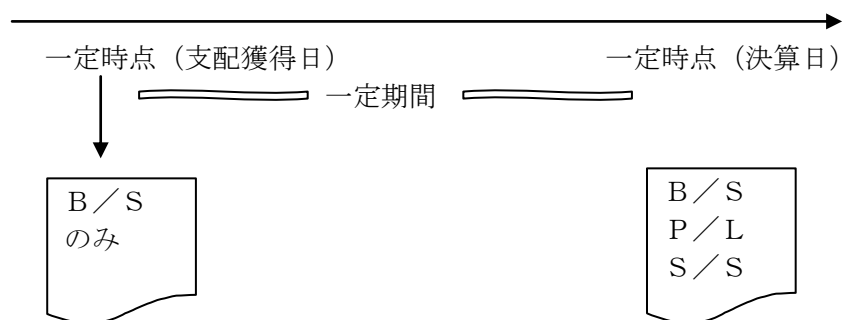
合算



総資産が大きくなってしまい
投資家の判断を誤らせる

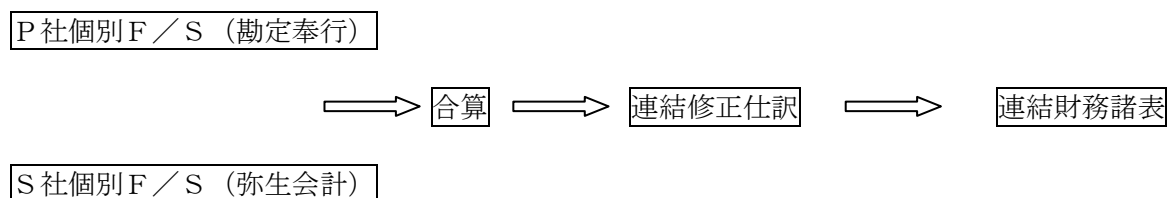
合算した後で、逆仕訳（相殺消去という）
<個別を合計してから差引く 強く意識>

P 1 0 4 (支配獲得日の連結)



連結財務諸表は親会社の株主の為に作成する (情報公開) という事を [強く意識] しよう
(会計理論では<親会社説=親会社の個別財務諸表の延長>が有力)

実務イメージを少し



「個別財務諸表の決算は終了している」

「合算以降の処理」は精算表上 (Excel) で行われている点を強く意識

次回以降の話だが、2年目以降の連結F/S作成時と同じ流れなので、1年目の連結修正仕訳は2年目の個別F/Sには反映していない。という事も少し意識しよう。

[例題]

P社は平成×5年3月31日にS社の発行済株式(S社株式)の60%を¥5,000で取得し、支配した。以下の資料にもとづいて、連結修正仕訳を示し、連結貸借対照表を作成しなさい。

●資料●

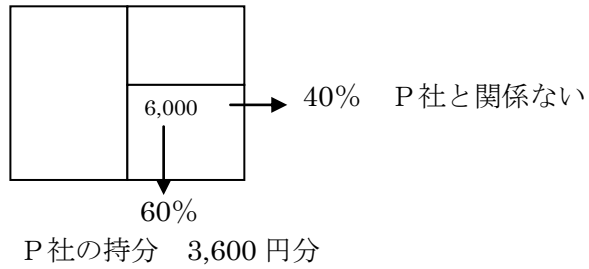
1. P社、S社ともに決算日は3月31日である。
2. 平成×5年3月31日のP社、S社の貸借対照表は次のとおりで、諸資産、諸負債の帳簿価額と時価は一致している。

P社貸借対照表			
平成×5年3月31日			
諸資産	15,000	諸負債	5,000
S社株式	5,000	資本金	11,000
		利益剰余金	4,000
	<u>20,000</u>		<u>20,000</u>

S社貸借対照表			
平成×5年3月31日			
諸資産	9,000	諸負債	3,000
		資本金	4,500
		利益剰余金	1,500
	<u>9,000</u>		<u>9,000</u>

部分取得に関して

S株 5,000	



3,600円分のS社の純資産を、5,000円で買った

諸資産 ()	諸負債 ()
のれん ()	資本金 ()
	利益剰余金 ()
	少数株主持分 ()
()	()

[問題]

P社は平成×5年3月31日にS社の発行済株式(S社株式)の80%を¥4,200で取得し、支配した。以下の資料にもとづいて、(1)評価替えの仕訳と(2)連結修正仕訳を示しなさい。

●資料●

1. P社、S社ともに決算日は3月31日である。
2. 平成×5年3月31日のS社の貸借対照表は次のとおりで、諸資産の時価は¥5,500である。

諸資産	5,000	諸負債	1,500
		資本金	2,800
		利益剰余金	700
	<u>5,000</u>		<u>5,000</u>



↓ 80%

()
 S株 ()
 のれん ()

<参考> 多額の「のれん」 ソフトバンクの携帯電話買収時ののれん 約 1 兆円
